

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立鬼怒中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語139人	社会138人	数学138人
	理科138人	英語138人	

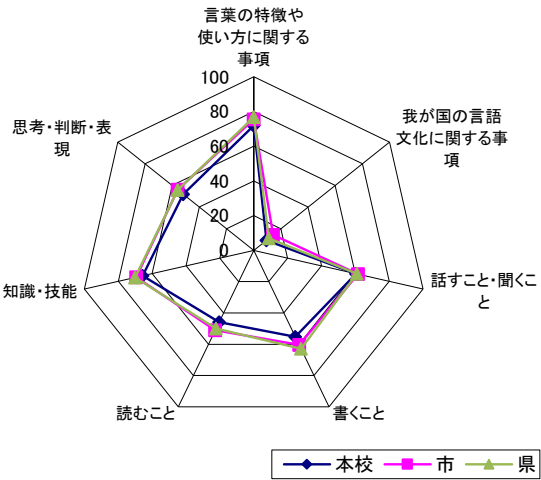
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	71.9	75.5	76.7
	我が国の言語文化に関する事項	9.4	14.3	11.2
	話すこと・聞くこと	60.4	61.6	60.9
	書くこと	55.2	60.4	62.9
	読むこと	45.9	51.0	49.9
観点	知識・技能	65.6	69.4	70.1
	思考・判断・表現	51.8	56.0	55.9



★指導の工夫と改善

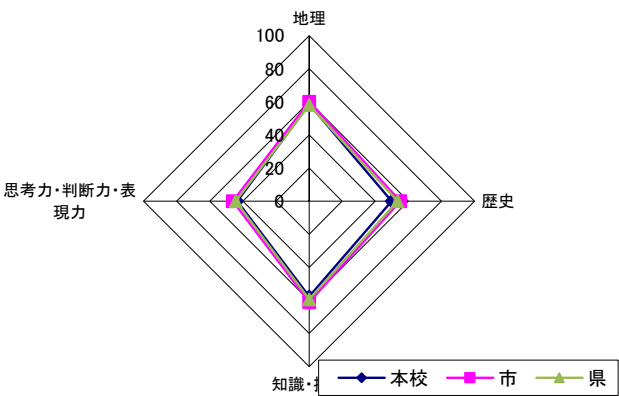
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて3.6%低い。 ○文節の関係に関する問いの正答率が、市の平均正答率と比べて1.3%高い。 ●故事成語が正しく用られている文を選ぶ問いの正答率が、市の平均正答率と比べて8.3%低い。	・故事成語の意味や由来について、折に触れて調べたり例文を作ったりする学習活動を行う。 ・初めて出会った言葉がどんな文脈で使われているのかを調べ、それをもとに、どんな場面でその言葉が使えるかを考えさせる。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて4.9%低い。 ●歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問いの正答率が、市の平均正答率と比べて4.9%低い。	・古典の単元において、音読を重点的に実施し、歴史的仮名遣いに対する抵抗感を和らげる。 ・歴史的仮名遣いに対する理解を深めるために、小テストを実施する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均と比べて1.2%低い。 ○話し合いの進め方の工夫を捉える問いの正答率が、市の平均正答率と比べて3.4%高い。 ●話題や展開を踏まえて自分の考えをまとめる問いの正答率が、市の平均正答率と比べて6.8%低い。	・話し合う学習活動において、話し合うだけで終わりにするのではなく、話し合いの内容を踏まえて、自分の考えをまとめる学習活動を行う。 ・自分の考えを形成するために、根拠となる情報を探したり取り出したりできるよう指導する。
書くこと	平均正答率は、市の平均と比べて5.2%低い。 ●自分の考えを根拠を持って明確に書く問いの正答率が、市の平均正答率と比べて7.8%低い。 ●2段落構成で文章を構成する問いの正答率が、市の平均正答率と比べて5.1%低い。	・根拠の説得力の高さを吟味する観点について気付かせる学習活動を行う。 ・文章を書く前に構成メモを作成するなどして、段落の役割を明確にして書くよう指導する。
読むこと	平均正答率は、市の平均と比べて1.8%低い。 ○文章で述べられていることを基に、自分の考えを確かなものにできるかを尋ねる問いの正答率が、市の平均正答率と比べて1.3%高い。 ●表現の効果について、根拠を明確にして考える問いの正答率が、市の平均正答率と比べて12.6%低い。	・表現技法の特徴や効果についての知識を再確認させる。 ・その表現が使われていることで、文章の展開や登場人物の描かれ方に関して、どのような印象を受けるかについて考えさせたり話し合わせたりして、表現の工夫や効果に対する理解を深めさせる。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	58.7	60.1	58.1
	歴史	49.9	55.1	53.5
観点	知識・技能	57.6	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	43.4	46.0	44.3



★指導の工夫と改善

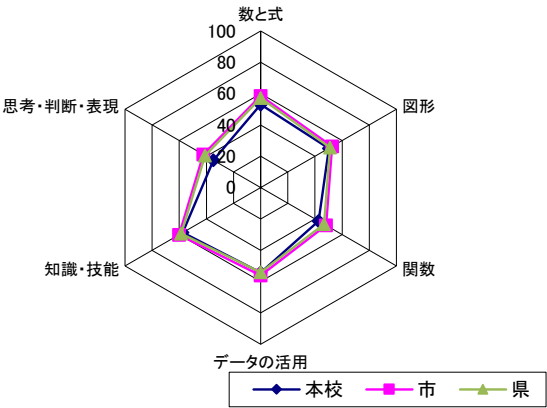
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	平均正答率は、市の平均と比べて1.5ポイント上回った。 ○地図の特徴、地図から指定された内容の読み取り、インドの人口増加に関する問題の正答率は7割を超えており、知識・技能の習得がみられた。 ●日本の領域と排他的経済水域、世界の気候、世界の諸地域についての問題の正答率は、市の平均よりも低く、複数の資料をもとに考察する問題に課題がある。	・資料から読み取ったり、分布を解答したりするなどの資料と知識と結びつける力が弱いので、地図帳や資料集を利用し、視覚的に理解が深められるようにする。 ・社会的な思考・判断・表現の領域が弱いので、この領域の力の育成を考えていきたい。 (1) 地図帳や資料集等を利用して、原因と結果、またその理由を考えさせる。 (2) 多面的多角的に捉えるために、グループ学習を実施し、思考力の育成を図る。 (3) (1)、(2)の結果、考えたことを自分の言葉で書かせ、表現力を高める。
歴史	平均正答率は、市の平均と比べて5.2ポイント下回った。 ○万里の長城の建築理由、大和朝廷と前方後円墳の分布の関わり、聖徳太子の政治の目的と奈良時代の人々の負担についての問題は、7割を超えており、知識をもとに資料について考察する力の定着がみられた。 ●旧石器時代や古代文明の特色、平城京から平安京に遷都した理由や変化など、各時代の特色や仕組みについての問題の正答率は、市の平均よりも低く、各時代の基礎を習得することと、それを基に自分の言葉で、適切に表現する力に課題がある。	・社会的な思考・判断・表現の領域が弱いので、この領域の力の育成を考えていきたい。 (1) 資料集等を利用して、原因と結果、またその理由を考えさせる。 (2) 時代を大観させ、時代の流れや外国との関係をつかませる。 (3) 多面的多角的に捉えるために、グループ学習を実施し、思考力の育成を図る。 (4) (1)、(2)、(3)の結果、考えたことを自分の言葉で書かせ、表現力を高める。 ・既習内容の定着を図るために、各単元の中で既習の各時代について触れるなど、社会的事象についての知識・理解の力を定着させたい。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	53.1	58.6	57.2
	図形	50.2	52.6	51.1
	関数	42.8	48.2	46.8
	データの活用	54.2	56.1	54.1
観点	知識・技能	57.5	60.2	58.6
	思考・判断・表現	34.9	42.3	40.9



★指導の工夫と改善

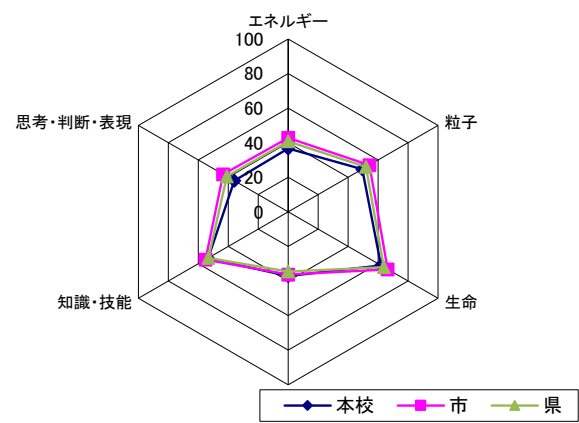
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、市より5.5ポイント、県より4.1ポイント低い。 ○負の数の計算はできている。 ●四則計算の結果の特徴を的確に捉え、数の集合と四則計算の可能性について理解できていないことが課題である。	・継続的に反復学習を行い、符号や計算ミスに注意を払いながら計算する習慣を身に付けさせていきたい。 ・与えられた文章題に対して、数量関係に注目しながら文字を使って立式させたい。
図形	平均正答率は、市より2.4ポイント低い。 ○直方体から三角柱を取り除いた立体のねじれの位置関係については理解できている。 ●半径が等しいおうぎ形と円の面積の大きさについて理解できていないことが課題である。	・図を丁寧に書かせるなど図形を用いた活動をたくさん取り入れ、図形に関する様々な知識の理解を深めさせたい。面積や体積の求め方を理解させ、公式を確認し、繰り返し練習問題に取り組ませていきたい。
関数	平均正答率は、市より5.4ポイント低い。 ○与えられた関数の表をもとに、yがxに比例している表を選ぶことができています。 ●与えられたグラフから、求め方を説明することができていないことが課題である。	・関数についての理解が不十分である。文章から2つの数量関係を見出し判断する力を身に付けさせるために、2年の1次関数の分野でも比例のグラフとの関連を確認しながら指導していきたい。
データの活用	平均正答率は、県よりやや高い。 ○階級の幅が異なるとヒストグラムの形が異なることを理解できている。 ●示された考えが正しい理由を、2つの度数折れ線から読み取った傾向をもとに説明することができていないことが課題である。	・資料の活用における知識・理解、技能、そして考え方は、他教科や総合的な学習の時間などでも活用できるように、機会を設け、学習したことが生きる場面を多く設定していきたい。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	36.7	42.8	40.8
	粒子	49.4	54.2	52.0
	生命	62.0	66.4	63.8
	地球	37.1	36.2	34.5
観点	知識・技能	53.5	55.2	53.3
	思考・判断・表現	36.0	43.5	41.0



★指導の工夫と改善

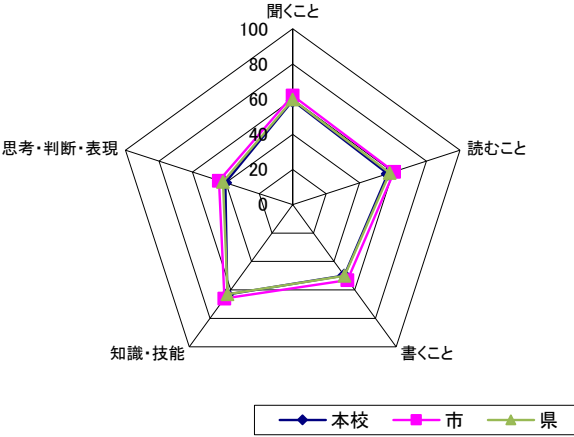
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市の平均と比べて6.1ポイント低い。 ●ばねに加えた力を求めることができるかどうかをみる問の正答率が15.2%で無回答率が26.1%であった。	・実験で得たデータの処理方法や考察のヒントなどを丁寧に指導し、生徒が自ら作業することで、グラフの書き方や作図のしかたを身につけることができるように実験の進め方を工夫する。 ・表、グラフ、計算などでchromebookを活用するなど、関心をもってデータの処理を学べるように授業の改善を図る。
粒子	平均正答率は、市の平均と比べて4.8ポイント低い。 ○鉄でできているかどうかを調べる実験を選ぶ問の正答率が、市の平均正答率と比べて11.8ポイント高い。 ○湯をかけたあとのエタノールの粒子モデルを選ぶ問の正答率が、市の平均正答率と比べて7.1ポイント高い。	・密度や質量パーセント濃度の意味を理解し、求めるにはどのような数値が必要かを考えたり、式の意味を考えたりする時間をとり、活用できるように授業の工夫をする。 ・文章で答える問の無回答率が高いため、自分の思考を表現する時間を増やしたり、知識を活用して取り組む応用問題などを扱うようにする。
生命	平均正答率は、市の平均と比べて4.4ポイント低い。 ○正しいスケッチを選ぶ問の正答率が、市の平均正答率と比べて4.9ポイント高い。 ●植物を分類するための特徴についての問の正答率が低い。	・授業で扱っていない植物が出題されると正答率が下がるため、多くの植物や動物を調べたり、映像を視聴したりして知識の幅を広げるようにする。
地球	平均正答率は、市の平均と比べて0.9ポイント高い。 ○火山をマグマのねばりけが小さい順に並べ替える問の正答率が、市の平均正答率と比べて7.2ポイント高い。 ○マグニチュードと震度に関する問の正答率が、市の平均正答率と比べて17.0ポイント高い。	・地層や火山活動などの映像の視聴を積極的に取り入れ、視覚的に捉えさせる工夫をする。 ・地層のでき方を整理することで、当時の時代や環境を推測させる力をつけさせる。 ・地震の伝わる速さについてイメージできていない生徒が多いため、計算問題や応用問題を実施し、理解を促す。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	59.2	62.0	59.7
	読むこと	56.9	60.6	58.0
	書くこと	49.9	53.1	50.1
観点	知識・技能	63.2	66.0	63.0
	思考・判断・表現	40.3	44.1	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、市より2. 8ポイント、県より0. 5ポイント低い。 ○絵を適切に表している英文を選ぶことができています。また、英文の概要や要点を聞き取ることができています。 ●たずねられたことに対して自分の考えを答える問題において、無回答率が高い。	・日々の授業の中で、ALTや他生徒との言語活動を多く取り入れ、インプットの量を増やしていく。 ・ALTとのTTの授業を実施しながら、教員同士の対話例を示す機会を多くもち、聞くことへの関心や慣れを育てていく。 ・パフォーマンステストと学期に2回設け、個別にALTと英語で会話をする機会を増やし、質問の意味を理解したり自分自身のことを伝えたりする力を養う。
読むこと	平均正答率は、市より3. 7ポイント、県より1. 1ポイント低い。 ○英文を読んで概要を理解し、英文にふさわしいタイトルを選ぶことができています。 ●必要な情報を読み取る問題全般において正答率が低い。	・読む活動では、文章のおおよその内容をつかむことを意識した設問と、代名詞などが指すピンポイントの情報についての設問の両方を使い、長文読解のポイントを意識した指導を行う。 ・紹介文や日記、対話文だけでなくポスター、チラシ、メールなど、様々な形式の英文を読むことで、英文を読むことに慣れさせつつ、読むことへの興味関心を高める。 ・記事を読んで自分の意見を書くなど、思考力・判断力を高める指導を行っていく。
書くこと	平均正答率は、市より3. 2ポイント、県より0. 2ポイント低い。 ○未来や過去を表す文法に関する問いや、適する代名詞を選ぶ問い、疑問詞に関する問いの正答率が高かった。 ●書く問題全般において、無回答率が高い。特に、対話の流れにあった英文を書く問題においては、市平均よりも10ポイント以上も無回答率が高かった。	・教科書等で学ぶ基本文法のそれぞれの目的や場面設定を明確にし、生徒に英語の使用場面をよく理解させられるように指導の工夫を行う。 ・質問に答えるだけでなく、相手に尋ねる英作文を書く活動を取り入れる。帯活動等で行っている会話活動を生かし、書く活動へと繋げていく。 ・教科書で学ぶ基本文法から、自分自身のことに置き換えて英文を書く活動を取り入れ、自分の事柄を伝える英文を自信をもって書けるような指導を行う。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「1か月に、何冊くらい本を読みますか。」という質問に対して、5冊以上と回答している生徒の割合が、県の平均と比べて14.3%高い。学校図書館の選書の工夫や、委員会活動において読書習慣の定着を促していることが奏功している。また、朝の読書の時間を週4回設けることで、読書活動が学校文化の一つとなっている。

○「人と話すのは楽しい」という質問に対して、肯定的に回答している生徒が、県の平均と比べて0.7%高い。人とコミュニケーションを図ることに前向きな気持ちを持っている生徒が多いので、授業の中で協働的な学習活動を一層充実させることで、学力向上を図りたい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」という質問に対して、肯定的に回答している生徒の割合が、県の平均と比べて24.9%低い。本校では、定期テストの学習計画表を2週間前に配付して、計画的に学習するよう指導している。しかし、具体的な計画になっていない、学習する予定の内容が不十分、自分が立てた計画通りに進められない、などの状況が見られる。具体的に学習することの良さや効果について粘り強く指導していく。

●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」という質問に対して、肯定的に回答している生徒の割合が、県の平均と比べて25.1%低い。学習全般に対する意欲が低い現状がある。何かができるようになったり、分かるようになったりすることの喜びを感じさせるように学習活動を工夫し、学習に対する抵抗感を取り除いていく。その上で、学習という営みが自分の将来の可能性を広げ、自己実現につながるものであることを実感させる。

●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」という質問に対して、肯定的に回答している生徒の割合が、県の平均と比べて22.6%低い。国語の授業の中では、定期的に語句の意味を調べる学習活動を行っている。しかし、新たに出会った言葉やよくわからない言葉について、日ごろから進んで調べる習慣は定着していない。語彙に対する興味関心を高める指導を行うとともに、調べる方法やその意義について、重ねて指導する。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
語彙力と読解力の向上	毎週金曜日の朝の活動の時間に、読解力を高めるための補助教材を全校同時に実施する。	「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」という質問に対して、肯定的に回答している生徒の割合が、県の平均と比べて22.6%低い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
進んで語彙を増やしたり、言葉に関する理解を深めたりする意欲や態度に課題が見られる。	語彙力や読解力を向上させる取組を、国語科だけでなく、各教科で行う。	各教員が校内研修の一環で行う授業公開において、各教科の特質に応じて、読解力や語彙力を向上させる工夫を行う。